

東日本大震災から9年半・・・町の復興状況を写真で紹介します

新地駅周辺では新地エネルギーセンター、複合商業施設、フットサル場、ホテル・温浴施設、温泉スタンドが完成。町文化交流センターも8月1日開館しました。沿岸部では防潮堤、漁業施設、海釣り公園が復旧し、昨年開園した釣師防災緑地公園では、パンプトラックもオープンし賑わっています。



町のシンボル、標高430mの鹿狼山は子どもからお年寄りまで手軽に登ることのできる山として、年間を通して多くの登山者が訪れます。元旦は、日本一早い山開きと銘うって、3千5百人が山頂で日の出を迎え、これからの紅葉の時期は一番賑わいます。また、登り口近くの「海の見えるガーデン・花木山」も季節の花で迎えてくれます。

津波被災地の多くの防災緑地は、津波からの減災機能を重点に整備されていますが、釣師防災緑地は漁港や海水浴場に近く、多くの人が集うことから、減災、慰霊・追悼の場の他に賑わい機能も持つ施設に整備しました。

遊具、バーベキュー広場、オートキャンプ場、そして世界でも屈指のパンプトラックコースもオープンし、交流人口の拡大が期待されます。



パンプトラックが7月11日オープン

被災者の住まい再建は早くから進み、ほぼ終わりました。復旧工事は、道路・河川橋梁の一部を残すのみとなりました。

津波で大きな被害を受けた新地駅周辺地区、鉄道が内陸に移設され、数メートル盛土した新しい街には住宅建築が進み、町及び民間分譲地の売れ行きは好調です。

駅東には、診療所、LNG活用の新地エネルギーセンター、フットサル場が整備され、駅西では、駐車場、複合商業施設、ホテル・温浴施設が営業を開始し、誰でも利用出来る温泉スタンドも完成し供用中。

駅前の町文化交流センターも8月1日に開館しました



新地駅前の文化交流センターが8月1日開館

人気の遊具、遠くには蔵王連峰が望めます



しんちまち

新地町の名産・名所



	H26/4/1	R2/8/1
人口	7,936人	8,081人
世帯数	2,609世帯	2,872世帯
面積	46.69km ²	

H26/04は震災後最も少ない時の住基人口。直近は、毎月1日福島県調査の現住推計人口。震災後の転入者には、住民未登録者が多く住民基本台帳人口とは合わない。



**福島県浜通り地方
最北端のコンパクトな町**



【カレイ】



【コウナゴ】



【ニラ】



【いちじく愛す】



【スイートマシェリ】



【鹿狼山
年間来訪者4万人】



【清酒 鹿狼山】



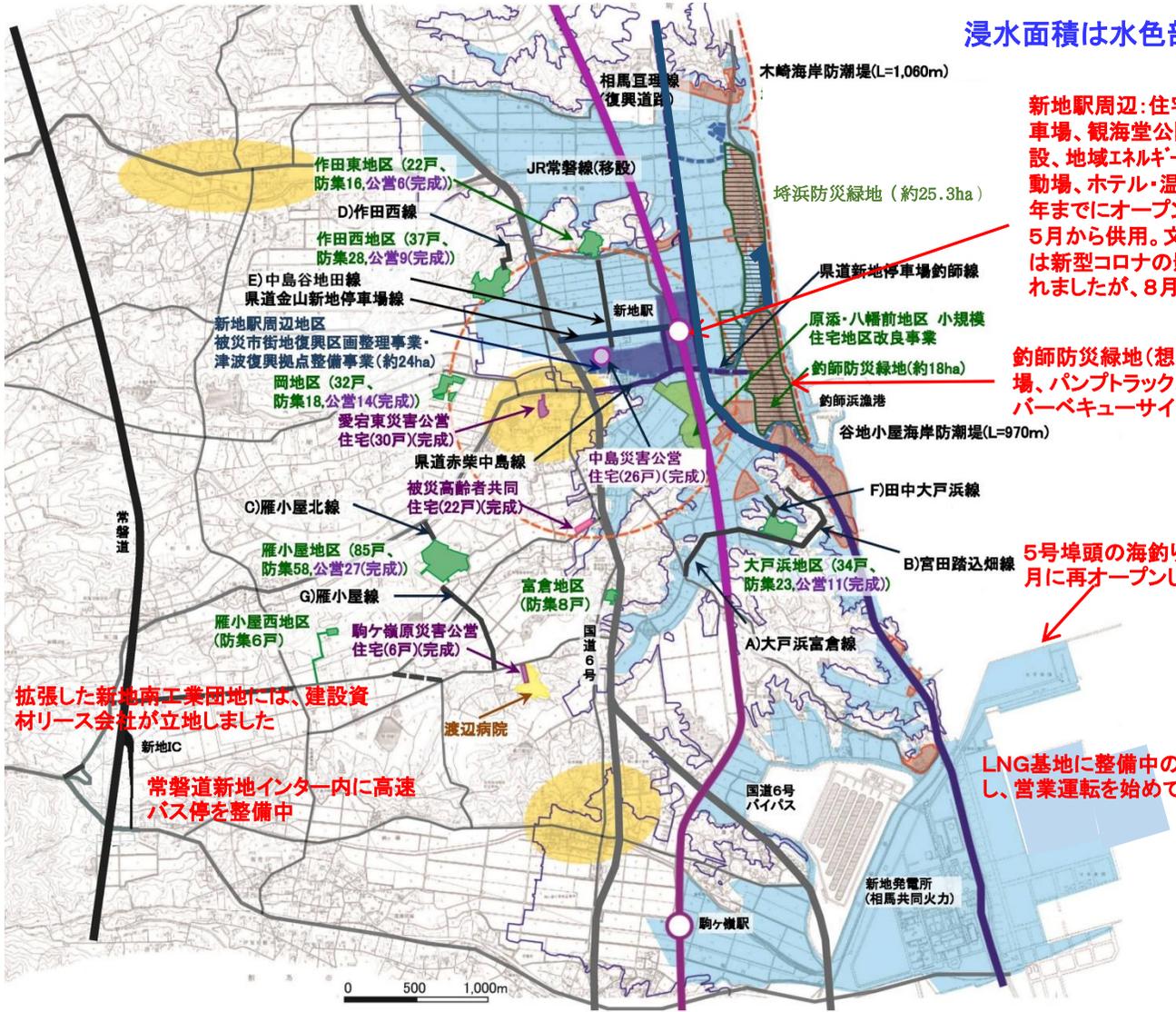
【海の見えるガーデン・花木山】

標高140mからの
絶景

新地町 主な復興事業箇所図

浜通りの最北端の町

浸水面積は水色部 9.27km²



新地駅周辺:住宅が建ち並び駐車場、観海堂公園、複合商業施設、地域エネルギーセンター、多目的運動場、ホテル・温浴施設が2019年までにオープン、温泉スタンドも5月から供用。文化交流センターは新型コロナの影響で開館が遅れましたが、8月1日に開館

釣師防災緑地(想いの丘、子供の広場、パントラック、オートキャンプ・バーベキューサイト等)

5号埠頭の海釣り公園は、2019年4月に再オープンしました

LNG基地に整備中のガス発電所が完成し、営業運転を始めています

拡張した新地南工業団地には、建設資材リース会社が立地しました

常磐道新地インター内に高速バス停を整備中

- ① 防災集団移転促進事業 移転団地
- ② 区画整理・津波復興拠点整備事業
- ③ 公営住宅
- ④ 被災高齢者共同住宅
- ⑤ 小規模住宅地区改良事業
- ⑥ 県道整備
- ⑦ 町道整備
- ⑧ JR常磐線移設
- ⑨ 河川
- ⑩ 防災緑地
- ⑪ 海岸防潮堤

- 浸水区域
- 標高10m
- 既存の国県町道
- 既存の中心的集落



－ 新地町の復旧・復興状況 －

安心・安全なまちづくり（町復興計画の5つの基本方針）

1. 沿岸北部復興イメージ

(沿岸部の断面図)

A-A'断面

⑤「10m以上」の高台に住宅を再建

②災害危険区域指定＋被災地
買取り＋防災緑地整備

①防潮堤は以前より1m高く

安全な場所で
JR常磐線再建
10m以上の区域で
住宅再建

二線堤の整備

丘陵状堤防、公園、
防潮林等

防潮堤

▼TP7.2m

▼T.P.:0.00m

作田西団地

作田東団地

国道6号

2. 沿岸中部復興イメージ

⑤「10m以上」の高台に住宅を再建

③常磐線跡地を盛土した県道バイパスは「二線堤」の役目も

漁業、観光、レクリエーション関連施設等用地

安全な場所で
JR常磐線再建

二線堤の整備

防潮堤

▼TP7.2m

▼T.P.:0.00m

新地駅周辺：土地区画整理事業による新しい街

雁小屋、岡団地ほか2団地

④常磐線は、まちづくりと一体で内陸に移設

漁港背後の高台：漁師が多い大戸浜団地

国道6号

住宅地

農地

- ①防潮堤は、以前のTP6.2mから7.2mに。
- ②被災した土地を買い取り、代金を住まい再建に活用し土地は防災緑地等に。
- ③常磐線跡地を盛り土して第二の堤防(二線堤)に。
- ④鉄道は安全な内陸に移設し、かつ鉄道をまちづくりに生かす。
- ⑤住まい再建は、今回の津波到達高以上の高台と、新地駅周辺を安全な高さに盛り土した新市街地に整備。

－ 新地町の復旧・復興状況 －

東日本大震災から9年半・・・「2020年9月」の復旧・復興事業進捗状況

1. 防災集団移転	防集団地整備は早くから進み、高台等7箇所に整備した団地(全157区画)は、残り区画が「2区画」のみで、入居率は「98.7%」。これまでの入居率推移は、2014年6月「7%」、2014年12月「64%」、2015年6月「88%」、2016年6月「95%」と、震災から4年3ヶ月で約9割が入居しました。
2. 災害公営住宅	被災者の住居確保のため災害公営住宅8団地129戸を整備し、入居率は現在95%となっており、多くの方々が生活しております。また、昨年度から希望する方に災害公営住宅の払い下げを始めました。仮設住宅は2018年5月末で全ての入居者が退去し、最初の団地の入居から7年1ヶ月で全て廃止されました。
3. 被災高齢者共同住宅	親日国の台湾からは被災地に多くの支援をいただいています。新地町にも台湾赤十字社から3億円の支援をいただき、老夫婦のみや一人暮らしの高齢者世帯のため、小川の地場産市場「あぐりや」向かいに「22世帯」の長屋タイプの共同住宅を整備しました。
4. 被災市街地復興土地地区画整理	新地駅から役場裏周辺「23.7ha」を盛土した新しい街には、地元住民の再建住宅の他に、町内外の移転者の住宅建築が進み町分譲地は完売。また、駅西エリアには防災センター(兼)消防新地分署、文化交流センター、石油資源開発社員寮・食堂、貸店舗棟、ホテル・温浴施設、駐車場、公園、温泉スタンドが整備され、駅東エリアにはクリニック、LNGを活用したエネルギーセンター、フットサル場が整備されました。消防署北側の拡大商業施設にはドラッグストアが近く着工します。
5. 防災緑地	釣師防災緑地(約18ha):管理棟、駐車場、遊具、オートキャンプ場等が完成し2019年12月に開園し、パンptrラックもオープンしました。(町事業) 埴浜防災緑地(約25.3ha):植栽、園路、四阿、駐車場など整備が終わり開園しています。(県事業)
6. 道路	(復興道路) 町道:避難道路は完了路線から供用中で、小沢北線を整備中。新団地と拠点施設を結ぶ新たな連絡路「雁小屋線」、「中島作田線」が整備されました。 県道:金山新地停車場線、常磐線跡地の相馬互理線バイパス、新地停車場釣師線、赤柴中島線は、整備完了区間から順次供用されています。赤柴中島線は、新地市街地を迂回し、新地インター方面に抜けるバイパス工事が本格化しています。 (災害復旧) 町道:44路線全ての復旧が完了しました。 県道:全路線が復旧し、以前の浜街道の県道は町道になりました。釣師防災緑地内には県内初の信号のない環状交差点が誕生しました。
7. 河川	(改修事業) 砂子田川:新地駅周辺区画整理事業や防災緑地と一体で進められ、河川拡幅・橋梁掛け替えが進み、下流の一部残区間を工事中です。(県事業) 地蔵川:防潮堤が1m高くなった関連で、河口付近の堤防嵩上げとルート変更、新橋梁の架け替え工事が終盤を迎えています。(県事業) (災害復旧) 三滝川、埴川、濁川:復旧工事が完了しました。(県事業)
8. 海岸	防潮堤:以前より1m高い「TP7.2m」へ嵩上げする工事が全区間終わりました。(県事業)
9. 農業	農地復旧:農地のガレキ撤去は大型機械によるフルイ分けと、人力でガレキを拾う作業を併用し完了しました。 排水機場・水路:被災した6箇所の排水機場、各所の用排水路もすべて復旧しました。
10. 漁業	釣師浜漁港は、岸壁嵩上げ工事、漁具倉庫、漁具干場、荷さばき所が完成。地元で水揚げされた魚を加工する民間加工施設も出来ました。原発事故から9年が経過する現在、出荷制限魚種はR2。2月25日で全て無くなりましたが風評被害が強く残り、また、特産のコオナゴが温暖化で不漁です。
11. JR常磐線	2016年12月、「浜吉田～相馬間」が5年9ヶ月ぶりに再開通し、残っていた浪江以南の未開通区間も2020年3月に開通しました。

新地町の復旧・復興状況

住まいの再建(1) 防災集団移転促進事業(7団地)、小規模住宅地区改良事業(小川原添地区)が早々と完了



作田東団地(防集16区画,町営住宅6戸)



作田西団地(防集28区画,町営住宅9戸)



岡団地(防集18区画,町営住宅14戸)



雁小屋団地(防集58区画,町営住宅27戸)



大戸浜団地(防集23区画,町営住宅11戸)



富倉団地 (防集8区画)



雁小屋西団地(防集6区画)



小規模住宅地区改良事業(小川原添地区)

小川原添地区は災害危険区域に指定せず、全壊住宅を撤去し堤防的な緑地を整備

防災集団移転団地は、町の中心から概ね「1.5km」の範囲に、7団地157区画を整備し、早い時期から再建が進み、空き区画は2区画となりました。被災者の元宅地は広い方が多く、新たな団地整備では、それらの要望に添い国と協議を行い、ワークショップを重ね団地プランを修正し、完成した団地は満足度の高いものとなりました。

新地町の復旧・復興状況

住まいの再建(2) 災害公営住宅(8団地-129戸)、被災高齢者共同住宅(台湾からの支援で22世帯整備)

駒ヶ嶺原住宅は払い下げ済み、その他は最後に入居開始した中島を除き、今年度から順次払い下げられます



鉄筋コンクリート造、UR都市再生機構に整備を委託

愛宕東住宅(30戸)



各戸の間取りが異なります

作田東住宅(6戸)



各戸の間取りが異なります

作田西住宅(9戸)



雁小屋住宅(27戸)



最も早く完成した原住宅、払い下げ済み

駒ヶ嶺原住宅(6戸)



岡住宅(14戸)



各戸の間取りが異なります

大戸浜住宅(11戸)



各戸の間取りが異なります

中島住宅(26戸)

地場産市場「あぐりや」向いの被災高齢者共同住宅は、台湾赤十字の支援で整備



災害町営住宅は、防集団地5地区他3地区に129戸整備され、払い下げが始まり中島住宅以外は今年度払い下げ可能となります。また、被災した高齢者向けに台湾赤十字社の支援により22世帯の共同住宅を小川地区に整備しました。

新地町の復旧・復興状況

JR常磐線復旧、新地駅周辺土地区画整理事業、防潮堤整備事業



JR常磐線は2016年12月に再開通



2020年8月1日開館しました

新地駅前の文化交流センター、愛称は「観海ホール」



東京大学と連携した研究・交流施設が駅前に



主にフットサルに使用されています

駅東の多目的運動場は「スマイルドーム」



東側を通る天然ガスパイプからガスを引き込み発電

駅東の「新地エネルギーセンター」

新地駅周辺の住宅地では、町内被災者の住宅再建がほとんど終わり、転入者等の住宅建築が盛んです。駅前駐車場、複合商業施設、ホテル・温浴施設がオープンし、温泉スタンドも供用しています。町の文化交流センターは、新型コロナウイルスの影響で開館が遅れましたが、8/1に開館しました。また、駅前には東京大学と連携した都市デザインセンターが昨秋開所し、地域と連携して研究をしています。駅東エリアでは、天然ガスを電気・熱・Co2に変え、駅周辺施設で活用する「新地エネルギーセンター」、フットサル場が完成し、子供から大人まで大勢の人が利用しています。



埴浜地内：防潮堤と緑地北端部



防潮堤：漁港南ドック端部



海水浴場と防災緑地をつなぐ幅広階段

防潮堤の復旧と新設は、宮城県境近くから釣師浜漁港南端まで、以前より「1m」高いTP7.2mの高さで整備されました。釣師浜海水浴場と背後の防災緑地公園をつなぐ「幅広階段」も整備しました。

新地町の復旧・復興状況 防災緑地整備事業

広場・想いの丘・空中歩道・パンプトラック・オートキャンプ・バーベキュー・・・等々

ソーシャルディスタンスを
確保してご利用下さい



パークセンターサロン

パークセンター内のサロンはイベントにも利用されています



海の丘

海水浴場と階段でつながっています



オートキャンプを楽しむ若者たち



パークセンター内キッズルームの子供用ボルダリング



沿岸部集落跡の釣師・塚浜地区には、津波の力を減衰させ漂流物を捕捉する防災緑地を整備し、全国からの協力で「どんぐり、黒松」等を植えて育てています。

うち、釣師防災緑地は町が整備し、海水浴場背後地の利便性を生かそうと、大人から子供まで楽しめる施設を整備しました。

また、7月11日にはパンプトラックコースがオープンし、県内外から大勢のファンが訪れています。



釣師ガレイのじゃぶじゃぶ池



パンプトラック



管理棟(パークセンター)



想いの丘



先生の豪快なジャンプ

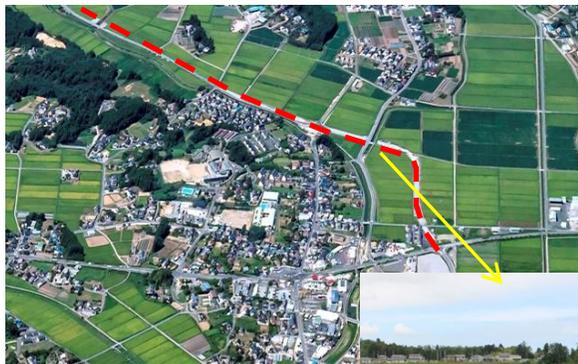
世界屈指のアスファルト舗装のBMXコースがオープン。初心者向けからプロ向けの3コースがあり、初めての子供でも先生の指導ですぐに上達、スケボーも出来る人気のコースです

新地町の復旧・復興状況 道路整備事業(町道、県道)



町道: 大戸浜富倉線は踏切を無くしました

県道: 赤柴中島線 新地町バイパス
令和3年度完成予定



道路は、踏切の遮断機が下り待っていて亡くなられた方の教訓から、新設する避難道路は「踏切り」をなくしました。県道も復旧と改良が進み順次開通、残る区間は大戸浜南部の嵩上げ工事区間、新地駅～新地インター方面に抜ける町バイパスを施行中。

また、大きな防集団地ができて交通量増加に対応する新しい道路・歩道も整備しています。



町道の歩道新設(新地保育所東側)

町道雁小屋南線: 団地から総合公園方面へ



岡東部の現道交差部付近

町道の歩道新設(町から防集岡団地)



嵩上げされた大戸浜地内の相馬互理線

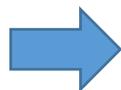
県道: 相馬互理線は大戸浜南から地蔵川工区以外は全線整備され、宮城県亘理郡の残り工事が急ピッチで行われています。



町道小沢北線(今年度末完成)
防集大戸浜団地から沿岸部に抜けます



大戸浜「いのちの道」



当日、津波で周囲が浸水し、この高台の砂利道だけが通れた



震災の津波直後、沿岸部の大戸浜地区は周囲の浸水で孤立し、ただ一本の高台の細い砂利道を通り、命からがら避難した道は「命の道」と呼ばれ、交差可能な複数の待避所が整備されました。

新地町の復旧・復興状況

河川・農地・農業用排水路の復旧、漁業・林業の再生



河川：役場裏東方の砂子田川



河川：濁川下流釣師橋より



農地のガレキ撤去も完了（埴浜付近）



農地復旧は終わり作付再開



排水路が復旧した駒ヶ嶺駅東「江堀川」



白魚漁で賑わう釣師浜漁港（2018年2月）



大戸浜に出来た民間の水産加工施設



林業：ふくしま森林再生事業
森林の放射線量低減と里山の再生を図ります

河川は拡幅・護岸・橋梁工事がほぼ終了。農地復旧は大量のガレキ撤去を機械と人力で実施し完了。

漁業は釣師浜漁港の岸壁嵩上げ・漁具倉庫再建が早々と進み試験操業を実施中で、荷さばき所も完成。漁港周辺には地元産魚を加工する民間の施設、新地町相馬市にまたがる沿岸部には、新地発電所の温排水を利用した県の水産資源研究所が完成。漁業の課題は原発事故による風評被害と、近年の海水温等海の環境変化による不漁続きがあります。

林業は森林の放射線量低減と山の再生を図る、福島県独自の事業で間伐等を実施中です。

新地町の復旧・復興状況

大規模プロジェクト(町の人口増)、定住促進、町外からの移転再建者、仮設住宅の廃止



相馬港の新地エリアに完成したガス発電所



最初の出店者ドラッグストアが決定

商業用地には間もなく着工(消防署北エリア)



購入者には補助金もあります

福田小学校の北東に分譲地12区画を造成中



地区世帯が大きく増加した富倉地区、他の増加地区も移転者の再建ピークが終わる

町外からの移住者が多い「富倉の原地区」



震災後町内に建築されたアパートは40棟以上200世帯を超え、開発関連事業社員が町外から入居し、少子化の中でも現住人口が増えた時期がありました

震災後、多くの町外被災者が新地町に住宅を再建し、その数は190世帯を超えています。新地の岡地区、駒ヶ嶺の原地区は特に移転者の多い地区です。また、新地駅周辺土地区画整理事業でも、町や民間分譲地を購入した町外者が住宅を建築し、人口増につながっています。一方、町中心部から遠い福田地区は人口が増えにくく、人口増施策として若者定住促進住宅を12戸整備し、現在、宅地を造成中で分譲も開始、町外からの移住者には、町と県から補助金があります。



町最初の仮設住宅が建った陸上競技場

仮設住宅撤去後は元の陸上競技場に復旧



多くの町外者が入居していた「がんごや仮設」

役目を終えて廃止撤去されました

仮設住宅は当初、町民の被災者向けに計画されましたが、原発事故による町外被災者からの入居希望が多くあり、追加で「がんごや仮設住宅126戸」を建設し、計「573戸」を整備。町民の住宅再建が順調に進み、順次廃止・解体され、最後まで残った「がんごや仮設住宅」も、2018年5月末で廃止されました。そして、仮設住宅に入居した縁で多くの方が町内に住まいを再建しました。



新地駅周辺において「地域エネルギーセンター事業」と「エネルギーマネジメント事業」を構築

■地域エネルギーセンター事業

- 相馬LNG基地からの天然ガスを活用し、ガスコージェネレーションシステムから新地駅周辺施設(ホテル温浴施設、交流センター等)へ熱と電気とCO2を供給
- 天然ガス専用導管・減圧装置を含むバルブステーションの構築、熱導管・電力自営線・CO2供給管の構築

■エネルギーマネジメント事業

- 公共施設等に災害時にも活用できる太陽光発電設備と蓄電池などを導入、駅周辺にソーラー街路灯を整備
- エネルギーマネジメントシステムを構築、地域内のエネルギー需給バランスの最適化

設備導入計画

対象施設	設備	設備容量等
地域エネルギーセンター	コージェネレーション	175kW
	太陽光発電	50kW
	蓄電池	50kWh
交流センター インキュベーション スクエア	太陽光発電	30kW
	BEMS	2基
スポーツ施設	太陽光発電	5kW
戸建住宅	HEMS	125基
防災センター	太陽光発電	20kW
	蓄電池	15kWh
	BEMS	1基
周辺地域	ソーラー街路灯(蓄電池)	6基

電気 + 熱 + CO2



熱電供給エリア

- 地域エネルギーセンターからの熱電供給範囲(鉄道施設除く)

コージェネレーションとは：ガス等を駆動源にした発電機により電力を生み出すとともに、同時に発生する排熱を活用するシステム・設備の総称です

天然ガスパイプライン

※供給管のルートはイメージです。

心の復興・「復興フラッグ」 自衛隊が沿岸部に立てた初代旗を形を変えて受け継ぐ

デザインが変わった「四代目」フラッグは、役場駐車場に仮掲揚されていましたが、2019年12月開園した釣師防災緑地公園内の環状交差点脇「復興フラッグ広場」に移されました



← 自衛隊が立てたと言われている初代日の丸
2011年4月7日・大戸浜地内

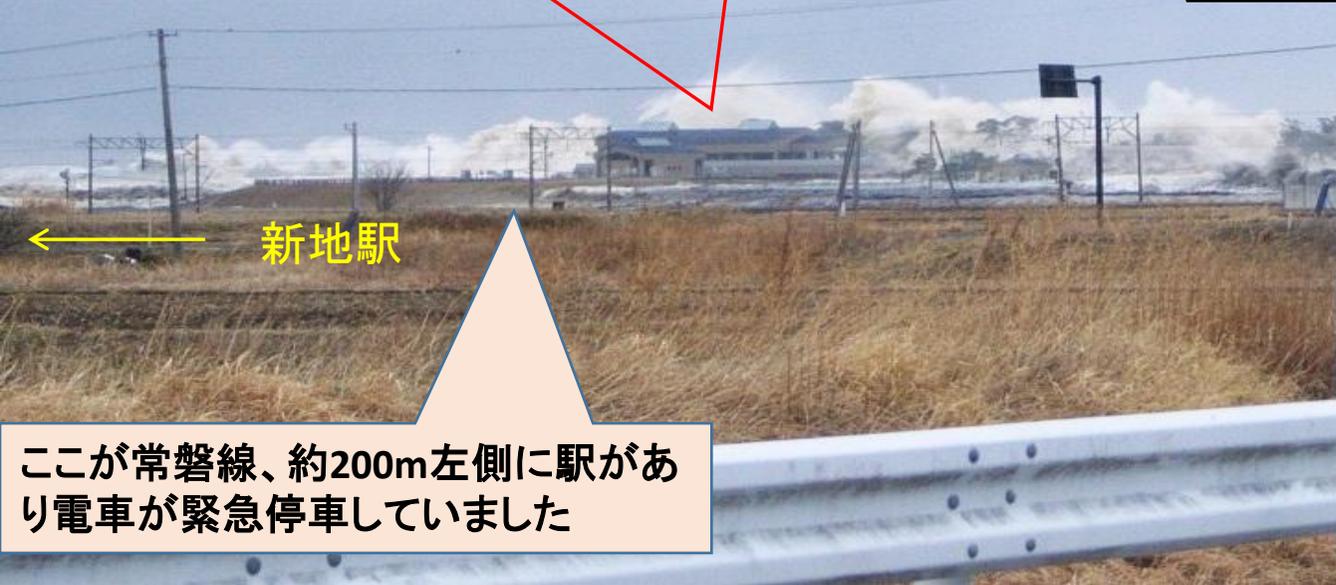
3. 11 あの時を振り返って



震源、電車乗客の避難、10mを超える大津波

2枚の写真(津波襲来と電車乗客避難)は、沿岸部現場から戻る途中の建設会社社員が撮影したものです。撮影の時間差は「5分」、電車に乗り合わせていた二人の若い警察官の誘導は、今も語り継がれています。

下水処理場の屋根は約15mの高さ。町には正確な津波高の記録はないものの、確実に「10mを越えていた」と思われます。



ここが常磐線、約200m左側に駅があり電車が緊急停車していました

役場に避難する電車の乗客、写真からは急ぐ様子うかがえず、大津波は誰も予想できなかったのではと・



役場庁舎裏の津波襲来直後。役場敷地は20センチ以上浸水し、ガードレール奥の砂子田川は、新地駅や中島集落から流されて来た車で埋まりました



自衛隊先発隊19名が翌早朝に到着、その後次々と遠方から大部隊が到着(写真は3/15日)

車庫棟は自衛隊炊事班が炊き出しに使用

山には雪が残る寒い日々が続く



平成13年建築の庁舎は、地震で内装にヒビが入る程度と被害はほとんどなく、停電とトイレ以外は以前と同じ環境で、震災の初期対応が迅速に出来ました。自衛隊・警察も、寒い中のテント泊ではなく、総合体育館で寝泊まりし、老人憩いの家の浴場も使用出来たなど、堅牢な公共施設が災害時に役立つことを証明しました。

庁舎4階展望ロビーから中島集落・新地駅方面

2011/03/16撮影



2005年4月役場4階から見た新地駅方面。後方は埴浜集落

新地駅で折れ曲がった電車

この車両は現在、白河市のJR東日本研修センターに展示されています



沿岸部4地区の被災状況



死者 119人(関連死含む) 津波による全壊「467」世帯



← 埴浜地区

全壊:61世帯



← 釣師地区

全壊:159世帯



← 大戸浜地区

全壊:101世帯



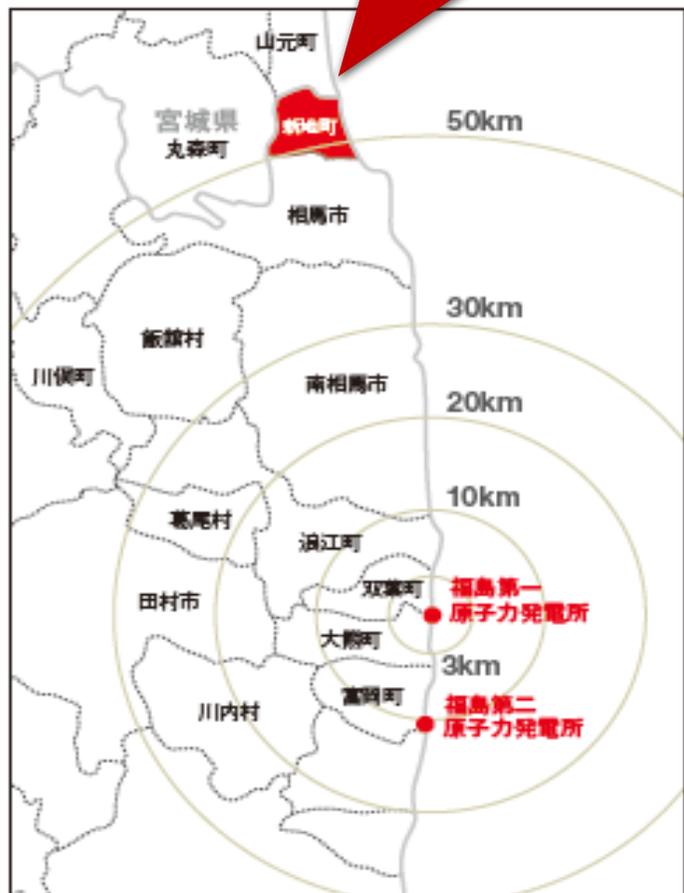
← 今泉地区

全壊:17世帯

福島第一原発事故と新地町

2020年6月20日の空間線量

0.04~0.13 μ Sv/h ←雨天続きで高い
(町測定 of 最低値と最高値：低くなってきたため四半期ごとに測定)



- 3/12 1号機 爆発
- 3/14 3号機 爆発
- 3/15 2,4号機 爆発



屋内待機や捜索中止の指示。停電のため正確な情報が入らず、どうしたらいいか分からない状況に、町民の不安は高まり、遠方まで避難した町民もいました。



▲第一原発に津波襲来

爆発事故当時、6号国道より東側の役場庁舎は停電エリアでテレビが映らず、電話やメールも繋がりにくく、情報は捜索を中断し屋内退避した自衛隊・警察から断片的に入るのみで、職員の多くは重大事故の詳細を知り得ませんでした。

2020年6月20日の空間線量(県測定)

鹿狼山登山口 (原発から51km)	新地町役場 (原発から52km)
0.10 μ Sv/h	0.11 μ Sv/h

▼3号機爆発後



仮設住宅の建設から廃止。写真は、2011/04/25入居開始の総合公園グランド仮設

- ・仮設に適した公共用地の他、町民からの土地協力により津波被災地で最も早い入居が実現
- ・町内8箇所に「573戸」建設し、最後の入居者が2018年5月末に退去し全団地廃止
- ・町外被災者も多く受け入れ、その一部や友達が町内で住宅再建し現住人口増につながる



震災直後と現在



2011年3月16日と同位置の復旧後



沿岸部集落から流された住宅や車両等ガレキで砂子田川や水田が埋めつくされた役場東方県道脇



2019年2月8日

復旧中の県道は一部が供用を開始し、砂子田川は改修され大きく拡幅されました



小川の6号国道東200m付近の「入り江」端部は、ガレキが大量に集まり自衛隊の搜索活動が行われていました



2017年9月

元の水田に復旧され作付け再開



役場4階展望テラスから釣師方面を望む。集落が消滅し5日たっても水が引かずに残っていました



2020年7月

鉄道は内陸に移設し、元鉄道敷は県道バイパスに。駅前にはホテル他大規模建築物が多数出来ました



ここを開けると「かまど」になる

かまど

薪があれば煮炊き出来ます

企業誘致、観光など賑わい創出



新地インターに隣接する高速バスタップ、待合所建築
駐車場舗装が終わり



釣師防災緑地でバーベキューを楽しむ若者達
2020年7月11日 パンプトラックオープン日撮影



被災した相馬港5号埠頭の海釣り公園は、
2019年4月に再オープンし連日大物が...



味菜ひろば「よりみち」

町には果樹も含め数軒の地場産の店があり人気スポットです。中でも先駆けの「あぐりや」は、4年前の来客数が延べ11万人を超え、安く新鮮な野菜をはじめ、菊など新地の花も人気の一因で、町外からも多くの方が買い物に訪れます。また、6号国道沿いの「味菜ひろば・よりみち」は、ここだけ限定の「ニラかりんとう」、「味菜たれ」、「特製ギョーザ」が人気です。近隣市町にライバル店が複数出来ましたが、特色を生かして頑張っています。



地場産市場「あぐりや」は20年越え

今後の残事業

- ・県道相馬互理線の戸浜南部工区
- ・河川改修(地蔵川、濁川田中橋架け替え)
- ・被災者支援事業(町独自補助、再建住宅の利子補助、引越代金補助ほか)



温泉スタンドも完成しました



鹿狼山マルシェ。毎月下旬鹿狼山登山口で開催し地場産品を販売。

震災を教訓に、後世に伝えたい一枚の写真

(1)津波を甘く見ないで

写真の地元の人も、その後の私たちも、「津波はこの程度」だと思い込んでいたと思われる一枚です。引き波後の「くぼ地に残された魚をとる」、そんな事が津波の度に繰り返されてきました。津波から自分で身を守る、**そのためには高台にすぐ逃げる**、将来に残したい貴重な写真です。

橋のすぐ北側の故・三宅 實さんが24歳の時撮影

この写真から津波高は「1.5m以上」と想定されます

1960年5月23日(日本時間)発生の子リ地震では大津波が発生し、太平洋を渡り三陸地方に数メートル越えの波が押し寄せ、死者行方不明142人の大被害をもたらした。新地町にも押し寄せ埴浜小塚橋上では消防団員が自転車で避難を呼びかけているが、急いで逃げる様子には見えません。

(2)犠牲者が出た踏切遮断機、その教訓を生かした避難路づくり



(3)命をかけた漁船の「沖出し」

写真は相馬港から沖に出る巡視船「まつしま」

巡視船「まつしま」に迫る最初の大波。乗員は船に「頼むぞ」の声掛け既に、900万回近く観られている動画です

画像は「海上保安庁」より

巡視船「まつしま」は、当日たまたま相馬港で訓練中でした。船を守るため漁船同様沖に出ました。まつしまは680トン、その後、老朽化により引退しました。



大波を越える瞬間・・・

新地の漁師も、大切な船を守るため沖出ししました。沖出しに向かった36隻のうち、エンジントラブルの1隻が波にのまれ一人が犠牲になり、もう1隻は波にのまれて沈没し、漁師は海に投げ出されましたが、仲間の船に助けられました。他にも、修理中で自力航行出来ない船一隻も、船を守るため仲間の船に曳かれて沖出ししました。波がおさまった翌日、34隻の船が釣師浜漁港に戻りました。漁船は巡視船と違い小型のため、大波越えはとっさの判断で、斜めに波に向かい乗り越えたそうです。



おわり

建設課復興推進室